

## 私が思うこと

浜口 正美

「だってさ、偏見があるのは本人が偏見をつくるようなことをしてるからやんか。そんな風に思われることを本人がしなかったら、偏見なんてなくなるやん！」  
障がい者に偏見をもつのは、障がいがある本人が悪い。学校の帰りに駅に居た障がい者の人を見た友達がそう言った。

私は小さい頃から隣に住んでいる人が聴覚障がいをもっていたり、友達が発達障がいをもっていたり、身近に障がいをもっている人がいたので、その時の友達の言葉は衝撃的でした。

「本当は、みんなと一緒に教室で勉強したい。でも、勉強できない私に友達が勉強を教えてたら、友達に迷惑かけるから、支援学級行くわ。」私の友達は、学習障がいをもっていて、勉強があまり得意ではなかった。その子は、普通学級にいたら迷惑になるからと、支援学級に行くことを勇気をふりしぼって決めた。でも、心無い子に、

「支援学級行くの？あんたってそんなんやったんや。」

と言われて、友達は泣いていた。障がいをもっている人は、偏見をもたれたり、悪口を言われる。本当は、色々な思いをしていたからこそ、人に優しく、心を強く、良い人なのに。その事を私は知っていた。衝撃的な言葉を言った友達に、私は思わず、

「それは違うやろ！障がいをもっている人がどれだけ偏見のせいで苦しんでいると思う？」  
と言った。

その日の帰宅後、この話を手話サークルに入っている母に話をしました。母は、  
「そう思ってしまうことは、仕方がないことだったのかもしれないね。正美は、小さい頃から障がいをもっている人と沢山接してきて、障がいがあっても良い所もいっぱいある事を知っているけれど、その友達はそういう事を知らなかったのかもしれないね。」と、母に言われて私も納得しました。私と違い友達は、今まで障がいをもっている人と関わりがなかったのかもしれない。また、障がいは治ることが少ない。その事を知らなければ、治したら良いと思うのかもしれない。今回の事を通して、どうしたら偏見をなくすことができるのか、私は考え、調べてみました。

平成二十五年には、『障がい者差別解消法』が制定され、障がい者への理解が高まってきている中、偏見の目もまだまだあります。だからこそ、皆が障がいについて偏見がなくなるように正しいことを伝えていくことが大事なんだと思います。私もそんな差別や、偏見のない世の中を作れるように、勇気を出し、伝えていきたいです。

私の将来の夢は、特別支援学校の先生です。障がいをもった子供たちが少しでも皆と同じように勉強したり、楽しく遊んだりできる様に、一人も辛い思いをする人が出ないような世の中にしたいです。

これからも障がいをもっている人と関わる中で、互いを理解し、寄り添い、支えあうことを大切にしていきたいです。